

● 議会と住民と行政の役割を明確に ● 将来にわたる環境問題への方針の 確立を (プラスチック包装容器のリサイクル推進)

倉地幸子
議員

住民自治基本条例を視野に入れてのまちづくりを

Q 地方分権に伴い各地で議会改革が進んでいる。民意を真に反映する議会運営がされているのか疑問。

住民が議会で意思を反映する仕組みが必要。区の単位は、10数世帯から約700世帯とばらつきがあり、住民自治を行うにふさわしい構成の自治会への脱皮が必要。

区長に行政からの依頼が集中する負担も軽減されたい。が、町長の後援会活動を行政ラインを使って行うことは住民自治を目指す上では非常に残念。はじめが必要。議会と行政と住民の役割を再確認する意味で、基本条例の制定を提案したい。

A 中央集権化の時代から、地域自らが考えてまちづくりをする時代である。これまでのように行政がなんでもやるのではなく、住民の皆さんと情報を共有しながら協働を目指す取り組みが今後の行政運営の基本と考える。その機運の高まりの中で条例の必要性が認識されるのを期待する。開かれた議会を望む。

石油資源の枯渇と地球温暖化防止は世界のテーマ

Q 住民課の指導の元にリサイクルセンターと各地区持ち寄り回収が効果をあげて郡内では「古紙」と「繊維類」のリサイクル量は突出している。ペットボトルとトレイ以外の、Pマークその他のプラスチックのリサイクルが行われていない。

月1回のゴミ収集場に入りきれない量である。燃やさず資源化を！ 県内42市町村中、7割以上の自治体がりサイクルしている。

A 来年、モデル地区をつくり、廃プラの収集分別について資源としての有効活用の理解を得たい。センターも将来は数ヶ所、設置が必要かと考えている。

H17年度揖斐郡他町との比較

	池田	揖斐川	大野
古紙	1182t	596t	146t
繊維類	139t	38t	19t
ペットボトル	73t	24t	23t
プラ容器包装類	—	114t	100t



リサイクルセンター



持ち寄り回収



月1回・回収のその他の燃えるゴミ



家庭から出るPマークのプラスチック包装